



日本音楽教育学会ニュースレター 第72号

目 次

1	会長就任のごあいさつ	今川 恭子	2
2	学会からのお知らせ		
1.	平成 30・31 年度 役員一覧		3
2.	平成 30・31 年度 委員一覧		3
3.	日本音楽教育学会第 49 回大会（岡山）大会のご案内（第 1 報）		4
4.	第 15 回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）のご案内		5
3	委員会からのお知らせ		
1.	編集委員会からのお知らせ		6
2.	理事候補者の辞退と繰り上げ当選のお知らせ		6
4	音楽教育の窓		
1.	〈連載〉音楽・教育・学校（16）		
	熊本県山鹿市八千代座の資料から見えてくるもの	塚原 康子	7
2.	2018 年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報		8
5	会員の声		
1.	音楽を思考する 3 つの視点	渡辺 景子	9
2.	会員の新刊・近刊等紹介		10
3.	【特別報告】「政府の教育勅語使用容認答弁に関する声明」に関する報告	有本 真紀	11
6	報告		
1.	平成 29 年度第 1 回常任理事会		12
2.	平成 29 年度第 1 回理事会		13
7	事務局より		16
	[編集後記]		

1 会長就任のごあいさつ

日本音楽教育学会会長 今川 恭子

2018年4月1日より、日本音楽教育学会の会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。このニューズレターがお手元に届くのは、新しい年度がスタートして2か月ほどが経った頃かと思います。第23期の役員・委員一同、気持ちを引き締めて既にさまざまな仕事に着手しているところです。会員の皆様のお力をお借りしながら、学会のさらなる発展のために力をあわせて務めて参る所存でございます。

1970（昭和45）年に第1回総会及び研究発表会を開催してスタートした本学会は、2019年に設立50周年を迎えます。学会がこれまでにわが国の音楽教育研究と実践に果たしてきた貢献は多大なものがあります。2019年度には設立50周年を記念する『音楽教育研究ハンドブック』の刊行などを予定しており、今後もさらなる前進を目指しております。

これからの2年間に取り組みたいと考える課題は三つあります。

一つ目は、多様性を尊重した研究と実践およびその交流の推進です。会員一人ひとりの立ち位置、音楽教育への携わり方、実践・研究の対象や方法は実に多様です。この多様性こそが音楽教育のバイタリティの源でもあります。広く人間の社会と生涯に目を向ければ「音楽の学びと教え」は多様かつ普遍的に見出され、これは「人が生きる」とことと音楽教育とが深く結びついていることの証にほかなりません。音楽教育の多様な営みに会員がそれぞれの立場で真摯に向き合い、探究を深め、相互に成果を尊重し合い認め合って交流することを、学会として組織的に支え、促していきたいと思います。

二つ目は、学会の社会的役割を自覚した活動の充実です。研究成果を現場へと還元するのみでなく、実践に学び、実践の中にある知を言葉にすることは、本学会がこれまで一貫して大切にしてきた姿勢のひとつです。この姿勢は継続的に様々な形で実現が図られてきましたが、まだ不十分なところもあります。一方で、社会の急速な変化は次々と新たな社会的要請を生み出しています。情報化、国際化に対応した体制の強化を進めながら、よりいっそう積極的に社会からの声に耳を傾け、直接・間接的に社会に貢献する活動を展開し、社会に向けた発信をしていきます。

三つ目は学際的研究の推進です。音楽教育の実践と研究は、これまでも隣接諸科学と手を結びながら挑戦を続けてきました。そもそも音楽教育そのものが学際的であると言ってもよいかもしれません。人文学、社会科学、人間科学はもちろん自然科学、応用・総合的な科学の諸分野に目を向けると、音楽に熱いまなざしが注がれていることが少なからずあります。壁を超えて刺激を受け、新たな発見に至る可能性を、学会が率先して拓いていきたいと思います。

以上三つの課題は相互に関連すると同時に、前期あるいはそれ以前から学会が目指してきたことの延長上にあります。私たちは一つひとつの問題に向き合いながらも、けっして対症療法的に処方箋を考えるだけでなく、問題の本質に向かう姿勢を持ち続けたいと思います。個々の研究と実践は細い1本の流れであっても、それらが学会という舞台で交わり合わさることで大きな力強い流れとなるにちがいありません。学会は、音楽教育に関心をもちの方々、音楽教育に様々な立場に関わる方々に広く開かれています。皆様の積極的なご参加とご支援を心よりお願い申し上げます。

2 学会からのお知らせ

1 平成 30・31 年度 役員一覧 ◎：地区担当理事

役 職	氏 名	所 属 等	選出地区	担 当
会 長	今川 恭子	聖心女子大学	関東	
副 会 長	有本 真紀	立教大学	関東	
事務局長	今田 匡彦	弘前大学	東北 ◎	
常任理事	寺田 貴雄	北海道教育大学	北海道 ◎	会計
	坪能 由紀子	開智国際大学	関東	国際交流
	本多 佐保美	千葉大学	関東	総務
	佐野 靖	東京藝術大学	関東	企画
	島崎 篤子	文教大学	関東	会計
	北山 敦康	静岡大学	東海	総務
	藤井 浩基	島根大学	中国・四国 ◎	編集（常任理事会選出）
	菅 道子	和歌山大学	近畿	広報
	小川 容子	岡山大学	中国・四国	企画，編集
	理 事	阪井 恵	明星大学	関東
水戸 博道		明治学院大学	関東	編集
中嶋 俊夫		横浜国立大学	関東 ◎	
玉村 恭		上越教育大学	北陸 ◎	
南 曜子		金城学院大学	東海 ◎	
奥 忍		関西外国語大学	近畿	広報
村尾 忠廣		帝塚山大学	近畿 ◎	国際渉外(会長特命), 編集(理事会選出)
日吉 武		鹿児島大学	九州 ◎	
山崎 浩隆		熊本大学	九州	
会計監事		杉江 淑子	滋賀大学	
	木村 充子	桜美林大学		

2 平成 30・31 年度 委員一覧 ◎：委員長 ○：副委員長

編集委員会	磯田 三津子	○小川 容子	小畑 千尋	駒 久美子
	嶋田 由美	菅 裕	杉田 政夫	高橋 範行
	藤井 浩基	◎水戸 博道	宮本 賢二朗	村尾 忠廣
	吉永 早苗			
国際交流委員会	疇地 希美	古山 典子	今 由佳里	柴崎 かがり
	◎坪能 由紀子			
広報委員会	◎奥 忍	木村 充子	菅 道子	高見 仁志
	塚原 健太	山中 和佳子		
選挙管理委員会	○味府 美香	高木 夏奈子	長谷川 恭子	◎水崎 誠
学会賞審査委員会	有本 真紀	今川 恭子	伊野 義博	小川 容子
	加藤 富美子	杉江 淑子	水戸 博道	
音楽文献目録委員会	三枝 まり	長野 麻子	福田 裕美	

3 日本音楽教育学会第49回大会のご案内（第1報）

大会実行委員会委員長 小川 容子

第49回大会は、10月6日（土）・7日（日）の2日間、岡山大学で開催いたします。大会テーマは「音楽教育学の地平を拓くために」としました。昨年の大会に引き続き、今回もたくさんの研究発表に対応できるよう、実行委員会一同張り切っております。これまでと大きく変わる点は「院生フォーラム」です。従来型のポスターによる研究発表を希望されているみなさまは「ポスター発表」をご利用いただき、「院生フォーラム」では多様化するキャリアパスについて意見交換をいたします。

ホテルは岡山駅周辺が便利です。岡山大学行きのバスが東口からも西口からも出ております。所要時間はどちらも20分前後ですが、ルートやバス停が異なりますのでご注意ください。『晴れの国岡山』で、みなさまのお越しをお待ちしております。

日程表

10月6日（土）														
9:00	9:30	11:30	12:15	13:00	14:30	14:40	14:45	15:35	16:30	16:40	17:25	17:40	18:30	20:00
受付・研究発表打ち合わせ	研究発表 1	ポスター発表 ①	昼食・昼休憩	プロジェクト研究・共同研究	休憩・セッティング	ごあいさつ	基調講演 1	基調講演 2	休憩・セッティング	シンポジウム	休憩・セッティング	総会	懇親会	
(実行委員会企画) 『専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ』														
10月7日（日）														
8:30	9:00	12:00	12:45	13:30	15:00	15:15	16:45							
受付・研究発表打ち合わせ	研究発表 2	昼食・昼休憩	ポスター発表 2	共同研究	休憩	共同研究								
		院生フォーラム												

実行委員会企画：専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ

岡山大会では、斉藤昭則教授（京都大学大学院 理学研究科 地球物理学教室，ダジックアース開発）と大藤剛宏教授（岡山大学病院臓器移植センター，世界初ハイブリッド肺移植に成功）を講演者にお迎えし、分野や領域の垣根をこえて、専門性のあり方や専門に関わる知識・技術、思考の型、態度等をどのように身につければよいのか等、みなさまと意見交換をしたいと考えております。

院生フォーラム（リニューアルします！）

（申し込み先は、ニュースレター第2報及び学会ホームページでご案内します）

修士課程，専門職学位課程，博士課程など，多様化する院生のキャリアパスについて，意見交換・情報共有をいたしましょう。修士課程から教職大学院への移行，現職教員に求められるキャリアの強化，教員採用試験への対応など，院生のみなさまが抱えているさまざまな不安や課題等を参加者全員で共有して情報交換をおこないます。

岡山大学（津島キャンパス）へのアクセス

① JR 岡山駅から JR 利用の場合

JR 津山線「法界院」駅下車， 徒歩約 10 分

② JR 岡山駅からバス利用の場合

- ・ 岡山駅西口バスターミナルから【47】系統
「岡山理科大学」行きに乗車，「岡大東門」で下車。
- ・ 岡山駅東口バスターミナルから【17】 or 【67】系統
「妙善寺」行きに乗車，「岡大東門」
あるいは「保育所前」で下車。
- ・ 岡山駅西口バスターミナルから【27】 or 【77】系統
「三野」行きに乗車，「法界院駅」で下車。
- ・ 岡山駅西口バスターミナルから【37】 or 【87】系統
「理科大学東門」行きに乗車，「法界院駅」で下車。

* 詳しくは→「<https://edu.okayama-u.ac.jp/access/>」
をご覧ください。



4 第 15 回音楽教育ゼミナール（広尾ゼミナール）のご案内

国際交流委員長 坪能由紀子

2018 年度も 2016 年に引き続き，国際的に開かれた若手研究者を支援するプログラム，「英語で研究を海外に発信しよう！」をテーマに行います。

講師：松信浩二（香港教育大学教授，ISME 理事）

世話役：坪能由紀子（国際交流委員長），今田匡彦，駒久美子

実行委員：疇地希美，石上則子，今川恭子，小川容子，古山典子，今由佳里，阪井恵，柴崎かがり，
菅 裕，高須裕美，水戸博道，三村真弓

基調講演：Chi-Keung Victor Fung（南フロリダ大学教授，ISME リサーチ委員会）

“Presenting Music Education Research with International Audience in Mind”

日時：2018 年 8 月 4 日（土）10:00～17:00 — 5 日（日）10:00～17:00

場所：聖心女子大学 マリアンホール内，グリーンパーラー，ブルーパーラー

参加費：会員（一般）3,000 円 会員（院生・学生）2,000 円

申込〆切：7 月 31 日（火）

申込・問い合わせ：ongakukyoiku.hirooseminar@gmail.com

3 委員会からのお知らせ

1 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 水戸 博道

平成 30・31 年度編集委員会が4月より新しくスタートいたしました。本学会の学会誌は、2016年より、『音楽教育学』が8月と3月の年2回発行、『音楽教育実践ジャーナル』は12月の年1回発行となり、それぞれが明確な特徴をもつ学会誌として生まれ変わりました。また、前期の編集委員会は、基本方針を、「投稿された原稿の長所を生かす」として、できる限り多くの論文を掲載することを目指して編集にあたってきました。その結果、『音楽教育学』への掲載論文数の増加や、『音楽教育実践ジャーナル』の特集の充実など、着実な成果をあげてきたと考えています。今期の編集委員会は、こうした基本方針を引き続き継承し、学会誌のさらなる発展を目指して努力していきたいと考えています。今期の編集委員会の委員とその研究分野は右の表のとおりです。

委員氏名	研究分野
磯田三津子	教育方法・教育臨床
小川 容子	音楽知覚認知学・音楽教育学
小畑 千尋	歌唱に関する発達的研究
駒 久美子	幼児音楽教育・音楽づくり
嶋田 由美	唱歌教育史・教材論
菅 裕	音楽科教師・演奏指導者の実践知
杉田 政夫	音楽教育の歴史と哲学
高橋 範行	音楽知覚認知・熟達化
藤井 浩基	日韓音楽教育関係史
水戸 博道	音楽的技能の獲得
宮本賢二郎	異文化間音楽教育・ドイツの音楽教育
村尾 忠廣	認知音楽学・教材分析
吉永 早苗	乳幼児の音楽表現・保育者養成教育

2 理事候補者の辞退と繰り上げ当選のお知らせ

第23期選挙管理委員会委員長 高橋 雅子

日本音楽教育学会の会則、細則、選挙管理委員会規定、会長・理事選挙実施要領に則って平成29年6月19日～7月3日に実施された「第23期日本音楽教育学会会長・理事選挙」の結果は、平成29年8月24日付のニュースレター第69号でお知らせした通りです。

この度、東海地区理事候補者の志民一成氏より転出による辞退の申し出があり、受理いたしましたので、次点者の南曜子氏が繰り上げ当選となりましたこととお知らせいたします。

なお、この決定は以下の規定によるものです。

「日本音楽教育学会会長・理事選挙実施要領」

II 理事選挙 6 理事選考の手続き

- (5) 当選者は、原則として理事を辞退することはできない。ただし、特別な事情がある場合は、会長へその理由を述べ、了承を得て辞退することができる。
- (6) 辞退者が生じた場合は、次点者を繰り上げて当選者を確定する。

(付記) 本誌 p.3 の役員一覧は第23期選挙管理委員会による以上の報告を受けたものです。

4 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (16)

1 熊本県山鹿市八千代座の資料から見えてくるもの

塚原 康子 (東京藝術大学)

一昨年から、科研のプロジェクト(熊本大学・山崎浩隆研究代表)で熊本県山鹿市にある国指定の重要文化財・八千代座の研究に関わっている。八千代座は、地元の人々が劇場組合を結成して建設した歌舞伎式の劇場で、花道・廻り舞台・枱席・棧敷席のしつらえがあり、現在も年に一度は歌舞伎公演が行われている。八千代座が竣工したのは明治43年(1910)、開場した翌44年(1911)は東京・日比谷に帝国劇場が開場した年でもあった。八千代座は、開場当初から、芝居や音曲の興行のみならず、各種の集会・演説会や繭置場など地場産業用スペースとしても使われる多目的空間であった。とりわけ、地元の小学校の学芸会が行われていたことは、「地域の劇場」の面目躍如たるものがある。本格的設備をもつ芝居小屋での学芸会体験は、子どもたちとその家族の忘れ難い思い出となっただろう。とはいえ、全国の芝居小屋の例に洩れず、八千代座は大正末から昭和初年の最盛期を経て、戦後は一時映画館に改修されるも徐々に老朽化していった。昭和60年代に入って、子ども時代の楽しい思い出を共有する人々により復興が始められ、劇場の山鹿市への寄付、国の重要文化財指定が実現し、平成には復元大修理も行われ、現在に至っている。

八千代座のユニークなところは、20世紀初頭に建てられた芝居小屋が現存するだけでなく、大道具・小道具から劇場経営にかかわる文書資料までが揃って残っている点である。その中から、明治・大正期の音楽状況について考えるヒントになるものを少し紹介してみたい。

前述したように、八千代座は地域の人々が劇場組合を作り出資金を募って建設した。そのため、毎年5月1日～翌年4月30日を会計年度として総会で収支決算を報告し、利益を分配していた。その資料として作成された毎年の「収支計算書」が、開場した明治44年(1911)から昭和16年(1941)まで残っており、ここから八千代座での年間の興行・集会等の内容と日数・収入高がわかるのである。開場年の明治44年度についてみると、稼働日数は143日余(日数の記載を欠く1興行あり)で、そのうち過半の77日は芝居興行(地元の女役者嵐徳三郎一座・嵐三桐一座、新派の伊東文雄一座、壮士芝居の黒田良助一座など)であり、音曲興行(義太夫1、浪花節2)19日を加えると全体の約2/3に相当する。残る1/3は地元の在郷軍人会や青年会の集会、文芸会・演説会、柔道試合、繭乾燥の席貸しなどに使われた。このうち、劇場に残る黒田良助一座の奉納額から、この一座には「囃子」として長唄1人・三味線2人・鳴物1人、それに加えて「楽長」と「楽隊」がいたことが確認できる。八千代座の芝居興行の多くを占めた新派や壮士芝居の音楽は和洋混成だった。また、開場年には活動写真およびそれに芝居を組み合わせた連鎖劇は行われていないが、大正期には1～2割を占めて興行の新たな柱となる。浪花節を用いる節劇、琵琶による琵琶劇の興行も非常に盛んで、九州とゆかりの深い浪花節と琵琶の存在感は義太夫節よりもずっと大きい。

年ごとのデータ提示など詳細は別稿に譲るとして、こうした興行状況を背景に当時の八千代座で響いていた音楽は、帝国劇場と異なるのは勿論のこと、大正期の音楽として通常想起される浅草オペラや童謡、新日本音楽ともすんなりとは結びつかない。これは地域差なのか、劇場とそれ以外の演奏の場の違いなのか、あるいは音楽史の叙述法とのギャップなのか。八千代座の興行内容そのものも、温泉のある山鹿の立地と県都・熊本との関係や、九州内の興行ルートと関連づけて見直す必要があるとしても、これまで音楽史が何を主要な関心の対象としてきたのか/こなかったのかを、改めて考えるための手掛かりがここから得られるのではないかと感じている。

2 2018 年度に開催される音楽教育に関わる学会研究会等の情報

学会・研究会名	開催期	開催場所	URL
日本音楽表現学会第16回(折り鶴)大会	2018/6/9-10	広島文化学園大学	http://www.music-expression.sakura.ne.jp/
日本カリキュラム学会第29回大会	2018/6/30-7/1	北海道教育大学旭川校	http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html
日本オルフ音楽教育研究会2018年度夏期セミナー	2018/8/8-9	白百合女子大学 クララホール	https://www.orff-schulwerk-japan.com/
日本コダーイ協会全国大会 in 福井 2018	2018/8/11-12	AOSSA 福井県民ホール	http://kodaly.jp/fukui2018/
日本学校音楽教育実践学会第23回全国大会	2018/8/18-19	京都教育大学	http://www.jassmep.jp/
音楽学習学会第14回研究発表大会	2018/8/26	椋山女学園大学	https://jsml.jp/
全国大学音楽教育学会第34回全国大会(仙台大会)	2018/8/23-25	仙台ガーデンパレス	http://www.nacome.com/
日本教育学会第77回大会	2018/8/30-9/1	宮城教育大学	http://www.jera77.jp/
日本音楽療法学会第18回大会	2018/9/14-16	サンポートホール高松	http://www.jmta.jp/event/
日本教師教育学会第28回研究大会	2018/9/29-30	東京学芸大学	http://jsste.jp/
教育史学会第62回大会	2018/9/29-30	一橋大学	http://kyouikushigakkai.jp/
日本教育方法学会第54回大会	2018/9/29-30	和歌山大学	https://www.nasem.jp/
全日本音楽教育研究会全国大会(大学部会大会)	2018/10/20	聖徳大学	http://www.jsme.net/
全日本音楽教育研究会全国大会(高等学校部会大会)	2018/11/1-2	宇都宮文化会館	http://www.jsme.net/
全日本音楽教育研究会全国大会(小中学校部会大会)	2018/11/8-9	和歌山県民文化会館	http://www.jsme.net/
日本音楽知覚認知学会平成30年度春季大会	2018/5/26-27	あいぼーと佐渡	http://jsmpc.org/
日本音楽学会第69回大会			http://www.musicology-japan.org/
東洋音楽学会第69回大会	2018/11/10-11	大正大学巣鴨キャンパス	http://tog.a.la9.jp/
日本ダルクローズ音楽教育学会第18回研究大会			http://www.eurhythmics.jp/
33rd World Conference of the International Society for Music Education	2018/7/15-20	Haydar Aliyev Palace, Hilton Hotel, The Baku Music Academy, The National Conservatory, Baku, Azerbaijan	http://www.isme2018.org/index.php
15th International Conference on Music Perception and Cognition / 10th triennial conference of the European Society for the Cognitive Sciences of Music	2018/7/23-28	Montréal, Québec: Department of Music, Concordia University, Sydney, Australia: School of the Arts and Media, University of New South Wales, La Plata, Argentina: Faculty of Fine Arts, National University of La Plata, Graz, Austria: Centre for Systematic Musicology, University of Graz"	https://music-psychology-conference2018.uni-graz.at/en/
ICMC 2018 : International Computer Music Conference	2018/8/5-10	Daegu Concert House, Daegu Art Factory, Daegu, Korea	http://www.computermusic.org/page/18/

5 会員の声

1 音楽を思考する三つの視点

渡辺 景子（北海道教育大学附属札幌中学校）

生徒の思考に寄り添って授業を展開しようとしたとき、「表現」「鑑賞」どちらの領域においても通用する見方・考え方を身につける必要がある。そこで、生徒が「作曲者」「演奏者」「鑑賞者」の視点を意識しながら音楽と関わり、自ら学習を進めることを研究してきた。音楽との関わり方を学ぶということは、生涯にわたって音楽文化に親しむ態度を育成することにもつながると考えている。ここでは、実践の一部を紹介したい。

● 作曲者の視点を歌唱表現へ 〈歌唱「花」（武島羽衣／滝廉太郎）〉

1～3番は同じ旋律の繰り返しではなく、強弱・旋律・速度に違いがあることに気づく。演奏者としてこの曲と出会うと、「違いが面倒」で、「間違えないように歌う」ことが目標となる。そこで、作曲者の視点から「滝廉太郎はなぜ変化を加えたのか」を考える学習を取り入れた。例えば、3番の「ながめをなにに～」の部分が1番と同じ詞にもかかわらず変化している理由について、詞との関連からイメージを広げようとする生徒もいれば、音楽の流れから理由を見つけ出す生徒もいる。これらをカードにして、交流することで、「フェルマータをもっと伸ばした方がよい」「大きな声を出して1番との違いがわかるように」などの表現の工夫を引き出すことができた[写真左]。

● 仲間の創作したものを演奏者の視点で読み解く 〈箏曲「さくらさくら」の副次的旋律創作〉

自分で創作したものを自分で演奏する体験は素敵なことだが、それゆえに一つの見方・考え方にとらわれてしまい、なかなか思考が深まらないという問題点があった。そこで、「Aさんが作曲・演奏したものをBさんが評価する」活動ではなく、「Aさんが作曲したものをBさんが演奏し、A・Cさんが評価する」という活動を行った。この活動において、Aさんは、Bさんの演奏を聴くことで作曲者から鑑賞者の視点で自分の作品を見つめ直す。Bさんは、演奏者の視点で自分事としてAさんの作品を読み解く。そして、Cさんはそれらを客観的に評価することができる。3つの視点から一つの作品を見直すことで、工夫や改善を加えることができた[写真中央]。

● 演奏者の視点を抜く 〈タブレット型端末を活用した旋律創作〉

創作の授業では、記譜力・読譜力・演奏技能不足により、思いや意図を十分に表現できないということがあった。そこで、演奏者をタブレット型端末に任せることで、技能不足を補い、創作のアイデアを広げることを試みた。創作したものを確実に再生できるため、学習者個人では鑑賞者の視点を持ちながら作曲として活動ができるという点、意見交流の場面では作品を聞いている全員が鑑賞者として交流ができるという点が、生徒の思考を深めることにつながっていた。

現在は、タブレット型端末の再生機能が読譜の助けになることを活かし、鑑賞で用いることを模索中である。また、タブレット型端末を用いた楽曲分析ののちに実際の演奏に出会うことで、演奏者の表現の工夫にも気付くことができるのではないかと考えている[写真右]。



2 会員の新刊・近刊等紹介

★山下薫子編著『平成 29 年版 小学校新学習指導要領ポイント総整理 音楽』

東洋館出版社 2017/10/3 A5・160 頁 ISBN978-4-491-03402-7 [本体 1,700 円+税]

小学校学習指導要領の何がどう変わったのか、その要点を簡潔に示すとともに、授業や組織運営の改善を実現する上で鍵となる資質・能力、主体的・対話的で深い学び、カリキュラム・マネジメント等の概念について、改訂の背景と関連づけながら丁寧に解説した。

★ウィリアム・ブラウン著／瀧川淳訳『メナヘム・プレスラーのピアノ・レッスン—音楽界の至宝が語る、芸術的な演奏へのヒント—』

音楽之友社 2017/10/23 A5 判・288 頁 ISBN978-4-276-14802-4 [本体 3,700 円+税]

長年ボザール・トリオを率いたピアニスト・プレスラーは、インディアナ大学で半世紀以上の指導歴を持ち、現在も各地でマスタークラスを行う。本書は、彼の指導観や芸術観を網羅し、また 23 曲ものレッスン録を収録した一冊。

★宮崎新悟・志民一成編著『平成 29 年版 小学校新学習指導要領の展開 音楽編』

明治図書 2017/11 A5・176 頁 ISBN978-4-18-328318-4 [本体 1,800 円+税]

「資質・能力」の整理や「見方・考え方」など改訂のキーポイントや、各領域・分野の「内容」や「指導計画の作成と内容の取扱い」の改善・充実点について、学習指導要領改訂に携わった著者陣が解説。さらに、新学習指導要領の趣旨に沿った豊富な指導プランも収録。

★宮下俊也編著『平成 29 年改訂 小学校教育課程実践講座 音楽』

ぎょうせい 2018/1/15 A5・237 頁 ISBN978-4-324-10308-1 [本体 1,800 円+税]

★宮下俊也編著『平成 29 年改訂 中学校教育課程実践講座 音楽』

ぎょうせい 2018/1/15 A5・218 頁 ISBN978-4-324-10322-7 [本体 1,800 円+税]

新学習指導要領について、読みやすく、わかりやすく、実践をイメージしやすく、をモットーに編んだ書である。掲載した実践例には、それぞれの題材に即して「音楽を学ぶ意味」を小・中学生にどう伝えたらよいか盛り込まれている。

★平野次郎編著『「資質・能力」を育成する音楽科授業モデル』(小学校新学習指導要領のカリキュラム・マネジメント)

学事出版 2017/4/11 B5・104 頁 ISBN978-4-7619-2298-6 [本体 2,000 円+税]

本書はこれからの初等教育をリードとしていく 5 名の実践者が、自らが音楽科の授業を通して育てたい資質・能力を明らかにして、それに基づいた授業づくりや授業実践を提案している。新学習指導要領で示されている 3 つの資質・能力の枠をこえた提案に注目していただきたい。

★吉田武男監修／笹野恵理子編著『初等音楽科教育』（MINERVA はじめて学ぶ教科教育7）

ミネルヴァ書房 2018/4/30 B5判・248頁 ISBN978-4-623-08160-8 [本体2,200円+税]

「音楽科教育とは何か」「何のために学ぶのか」。音楽科教育を学ぶ人が、自身で問いをたて、考えることができるよう意図して編集された、小学校教師、小学校教員養成大学学生のための入門書。新学習指導要領に対応している。

★高見仁志編著『新しい小学校音楽科の授業をつくる』

ミネルヴァ書房 2018/3/31 B5判・236頁 ISBN978-4-623-08170-7 [本体2,500円+税]

「教科専門」と「教科の指導法」の融合をめざした教員養成テキスト。新学習指導要領にも対応し、主体的・対話的で深い学び、ICTの活用、音楽科と保・幼・小連携、音楽科授業を支える学級経営、等の今日的な教育課題にも迫る一冊。

3 【特別報告】 「政府の教育勅語使用容認答弁に関する声明」に関する報告

副会長 有本 真紀

ニュースレター69号に掲載されましたように、本学会は、日本教育学会が教育関連諸学会連絡協議会加盟団体に呼びかけて文部科学大臣に提出した「政府の教育勅語使用容認答弁に関する声明」（2017年6月16日付）に加わりました。この共同声明は、森友学園問題が国会で取り上げられて以降、政府が「教育に関する勅語を教材として用いることまでは否定されない」との閣議決定と答弁を行ったことに端を発するものでした。本学会は、学問的立場から提言することが学会の使命であることを確認した上で、当時の小川容子会長名で声明に加わることを決定しました。

この声明に関連する、日本教育学会の動きについて報告いたします。同学会は「教育勅語問題ワーキンググループ」を立ち上げ、「教育勅語問題を考える」と題して2回の公開シンポジウムを開催しました（2017年6月18日、9月30日）。シンポジウムの内容は、「教育勅語の教材使用問題に関する研究報告書」として公開されました。さらに、教育勅語に関する最新の知見を提供することを期して、『教育勅語と学校教育—教育勅語の教材使用問題をどう考えるか—』（日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ編、2018.3.31、世織書房）が刊行されました。なお、同書には音楽教育学会会員のうち、西島央会員が「なぜ教育勅語の暗唱が問題なのか—『隠れたカリキュラム』から読み解く—」を、有本真紀会員が「学校儀式と身体—教育勅語と唱歌の共存関係を中心に—」を寄稿しました。

「ニュースレターは会員のホットな情報交換の場」の方針の下、この頁ではみなさまからの投稿をお待ちします。書籍の他、CD、DVDなどのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス (半角で) onkyouiku.kouhou@gmail.com

6 報 告

1 平成 30 年度第 1 回常任理事会

日 時：2018 年 4 月 29 日（日）14:00～15:20

場 所：聖心女子大学 マリアンホール内 ブルーパーラー

出席者：今川、有本、今田、小川、菅（記録）、北山、佐野、島崎、坪能、寺田、藤井、本多

開会に先立ち、今川会長、有本副会長、今田事務局長より新任の挨拶があった。以後、理事会と重複する事項は割愛して報告・審議された。

【審議事項】

1. 第 49 回大会について（小川）

- ・ 院生フォーラムについては、ポスター発表をやめ、「フォーラム（＝公開討論）」の形態で実施、テーマは「院生のキャリアパスを考える」とするとの提案があり、承認された。
- ・ 学会プロジェクト研究については、坪能企画担当理事より、テーマ「学校と社会を結ぶ」の 2 年目として、様々に展開している実践の中間報告を行う予定との説明がなされた。
- ・ 大会参加費は、事前申込 4,000 円、当日申込 4,500 円とすることが確認された。

2. 50 周年準備について（今川）

- ・ 50 周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』の作業はスケジュール通りに進んでおり、現在、Web 上では原稿公募が開始されているとの報告があった。
- ・ 『学会 50 周年の歩み』については、佐野理事より、既に任命されている長井覚子（白梅学園短期大学）、長山弘（広島大学大学院生）の 2 名の編集委員とともに委員会を組織しており、これに塚原健太（帝京大学）、田中路（東京純心大学）、山本由紀子（白梅学園大学）の 3 名を増員することが提案され、承認された。
- ・ その他、今川会長より、平成 30 年度中に 50 周年プレ企画として関連学術団体（音楽教育と美術教育の関連学会および理数系を中心とした他教科教育の関連学会を検討中）との連携シンポジウム等を企画する、また 31 年度前半に隣接科学領域の学術団体と連携して学際的シンポジウム等を企画していくことについて提案がなされ、承認された。

3. 教育関連学会連絡協議会からの提案について（今川）

今川会長より以下の 2 点について説明と提案があり、承認された。

- ・ 本学会も一員である「教育関連学会連絡協議会」が、2019 年に東京で開催される WERA (World Education Research Association) 大会において同協議会予算を協議会企画シンポジウム開催に充てることについて、本学会として了承する。
- ・ 本学会としてはシンポジウムの企画による参加は行わない。

4. 法人への移行について（今川）

従前より法人への移行について検討をしてきた経緯について説明があり、今後も引き続き法人への移行問題について検討すべく、ワーキンググループを立ち上げることについて提案があり、承認された。

<次回会議の予定>

第 2 回常任理事会 6 月 24 日（日）14:00～ 聖心女子大学

2 平成 30 年度第 1 回理事会

日 時：2018 年 4 月 29 日（日）15：30～18：00

場 所：聖心女子大学マリアンホール内 ブルーパーラー

出席者：今川，有本，今田，小川，奥，菅，北山，阪井（記録），佐野，島崎，玉村，坪能，寺田，
中嶋，日吉，藤井，本多，水戸，南，村尾，山崎

今川会長の挨拶に続き，今田事務局長より会務報告があった。

【会務報告】（2018 年 2 月 17 日以降）

- 3 月 18 日 ニュースレター第 71 号 発行
- 3 月 31 日 『音楽教育学』第 47 巻 2 号発行
- 3 月 31 日 平成 29 年度会計決算
- 4 月 8 日 平成 30 年度第 1 回編集委員会（明治学院大学）
- 4 月 28 日 平成 29 年度会計監査会（事務局）
- 4 月 29 日 平成 30 年度第 1 回常任理事会・理事会（聖心女子大学）

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（水戸）

- ・第 1 回編集委員会を 4 月 8 日に明治学院大学で開催した。
- ・委員長を水戸，副委員長を小川に決定した。

(2) 国際交流委員会（坪能）

- ・8 月 4－5 日に開催予定の広尾ゼミナールを準備中である。
- ・実行委員に国際交流委員 2 名（古山，今）を増員した。

(3) 広報委員会（奥）

今期は，山中，高見が留任，木村，塚原が新任として入り，常任理事から菅が加わる。

(4) 選挙管理委員会（中里→今田）

- ・委員長を水崎，副委員長を味府に決定した。
- ・選挙は本年度は実施されない。

(5) 音楽文献目録委員会（三枝→今田）

活動報告の後，紙媒体の文献目録の役割と，今後も参画し続けるか否かを検討した。

(6) 50 周年記念出版（加藤→今川）

[審議事項 6 を参照]

2. 例会報告（寺田・今田・中嶋・玉村・南・奥・藤井・日吉）

- ・各地区から 29 年度例会の報告と近畿地区第 1 回例会の案内があった。
- ・詳細は今後『音楽教育学』に掲載される。

3. 地区例会の開催の手続きについて（今田）

例会の予算などが資料で示され，その範囲において各地区で裁量するよう説明があった。

4. 事務局体制について（今田）

事務局員は，亀山，若尾，宇田川，HP 協力者は長山，光平であるとの報告があった。（敬称略）

5. その他

『教育勅語と学校教育—教育勅語の教材使用問題をどう考えるか』（日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ編，2018.3.31，世織書房）刊行の紹介があった。（本誌 p.11 参照）

【審議事項】

1. 平成 29 年度決算報告及び監査報告（島崎，寺田，佐野）

島崎会計担当理事より会計報告が行われた。また佐野会計監事より 4 月 28 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり，承認された。

2. 平成 30 年度事業計画及び補正予算について（島崎，寺田）

事業計画面案，及び補正予算案についての説明があり，資料の一部訂正も含め，承認された。

3. 平成 31 年度事業計画及び予算について（島崎，寺田）

平成 31 年度事業計画及び予算案について説明があり，資料の一部訂正を含め，承認された。

4. 第 49 回大会（岡山大会）について

以下の提案・説明があり承認された。

- ・小川理事（大会実行委員長）より，タイムスケジュールの提示とともに，順調な準備進捗状況が報告された。実行委員会企画は『専門性を極める・紡ぐ・繋ぐ』をテーマに 2 つの基調講演やシンポジウムが予定されている。（本誌 p.4-5，大会 HP 参照）
- ・院生フォーラムについては，特に企画案が提示された。ポスター発表を廃止し，「フォーラム（＝公開討論）」本来の形で実施する。テーマは「院生のキャリアパスを考える」である。
- ・学会プロジェクト研究について，坪能企画担当理事より説明があった。3 年計画のテーマ「学校と社会を結ぶ」の 2 年目であり，これに基づいて多様な実践が進行中であり，大会ではその経過報告が中心となる。
- ・大会参加費は例年どおり 4,000 円，当日参加の場合は 4,500 円である。

5. 広尾ゼミナール（8 月 4-5 日，聖心女子大学）について（坪能）

坪能企画担当理事より，実行委員の増員等の説明があり，引き続き準備を進めることが確認された。（ニュースレター 71 号 p.4，本誌 p.5，チラシ参照）

6. 学会設立 50 周年の準備について（今川）

2019（平成 31）年の設立 50 周年記念事業は、『音楽教育研究ハンドブック』出版と『学会 50 周年の歩み』の発行であることの説明があり，それぞれの準備状況が確認された。また，プレ企画として関連学術団体との連携シンポジウム等を企画していくことが提案され，承認された。

7. 教育関連学会連絡協議会からの提案について（今川）

本学会は「教育関連学会連絡協議会」の一員であるが，2019 年に，同会代表の佐藤学氏を実行委員長として都内で世界大会が開催される。会長より，本学会としてのアクションは特に起こさない旨の提案があり，承認された。

8. 本学会の，法人への移行について（今川）

現在日本音楽教育学会は任意団体であるが，10 年ほど前から，銀行口座の扱い等公的信用に絡む諸問題に鑑みて，一般社団法人への移行について検討を行ってきた。メリット・デメリットを計りつつ，引き続きこの問題は検討していくことが承認された。

9. 新入会員及び退会者について（今田）

2018年2月17日以降の新入会員，退会者について報告され，承認された。

申出退会 正会員 30名

2018年4月30日現在 正会員 1,568名 学生会員4名 名誉会員2名 特別会員2名

10. 育志賞の推薦について（今川）

日本学術振興会からの育志賞受賞候補者の推薦について，報告と依頼がなされた。

<次回会議の予定>

第2回理事会 10月5日(金)時間未定 於：岡山大学

【写真 無償の命の回生】

イエスキリストの生誕より1000年前、弥生時代に芽吹いた屋久島の紀元杉。長年の風雨で今や尖端はなく，しかし幹には多くの樹木を着生させる。側の倒木には芽吹いたばかりの赤ちゃん杉。子杉もこれから2,000年の年月を重ねるのだろうか。



6 事務局より

事務局長 今田 匡彦

1) 第49回大会(岡山大会)事前申込について

学会 web にてご確認ください。https://conv.toptour.co.jp/shop/evt/49ongaku_okayama/

正会員・特別会員	正会員・特別会員参加費： ¥4,000
大会・懇親会事前申込期限 平成30年9月6日(木)	(当日：¥4,500)
研究発表登録期限 平成30年5月31日(木)	懇親会費： ¥4,000
*ランチ、宿泊についての案内も掲載されています。	日替わり弁当(お茶付き)： ¥1,000

2) 年度会費納入のお願い

会費の期限内納入にご協力ください。会費未納の場合、大会での発表、送付物、論文投稿などに支障が発生します。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までご連絡ください。

3) 会員名簿について

今年度は新しい会員名簿の作成を予定しています。住所変更、所属機関の変更等がありましたら、速やかに事務局までお知らせください。

4) 学会誌バックナンバー販売について

昨年度同様、特別価格で販売中です。詳細は学会 website をご参照ください。

5) 事務局について

事務局は月・水・木(9:00～15:00)が開局時間です。亀山さん、若尾さん、宇田川さんに複雑かつ膨大な事務局業務を支えて頂いています。今年度もどうぞよろしくお願い致します。

【編集後記】

厳寒の冬から一足飛びに春を経て、初夏の陽気です。新年度の体制も落ち着いてきました。いかがお過ごしですか。

学会では昨年度の選挙結果を受けて役員と委員が交代しました。そこでNL72号は新しい体制の紹介が中心となりました。広報委員会でも関東地区から2名の新メンバーを迎えて、これまでの4名体制から6名に増強されています。全員、長年の音楽修行と教育研究によって育まれた鋭くも冷静で豊かな感性の持ち主ばかりです。ホントかな?と思われる方々、どうぞ今期の広報委員会の活動を温かく見守ってください。委員全員の協力によってさらに充実した誌面作りをめざします。

(奥 忍・菅 道子)

投稿先アドレス✉(半角で) onkyoiku.kouhou@gmail.com

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山・若尾・宇田川

